

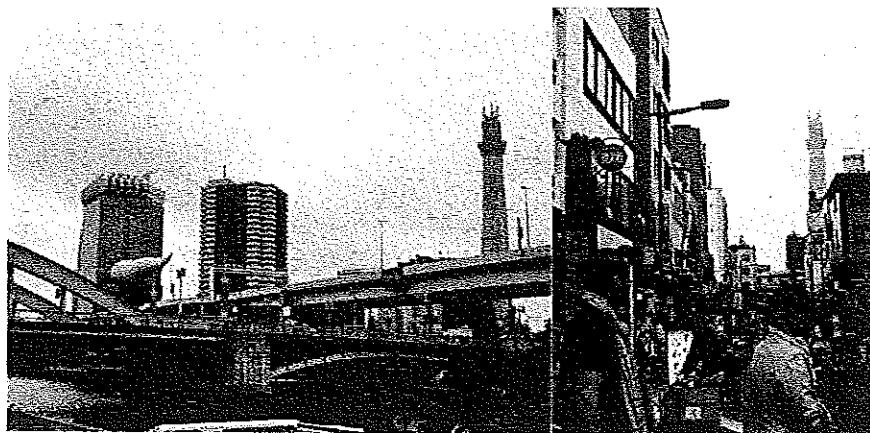
安藤ゼミ

東京スカイツリー

安藤ゼミ 10n1083 玉尾 京子

今回の安藤ゼミのウォークラリーのテーマは東京スカイツリーをメインとしたものでした。東京タワーよりも高く完成するといわれるスカイツリーはまだ半分より少し高い段階でしたが、それでもかなり高く、色々な角度、場所から拝見することができました。

東京タワーが建てられた当初も、かなり注目を浴びたようですが、それより高いわけですからそれよりも大きな注目が期待されるのではないかでしょうか。東京スカイツリーのもたらす効果を考えてみました。



左の写真は、水上バスから見たアサヒビールの建物と東京スカイツリーです。アサヒビールの建物は下部の黄色い部分がビールの液体部分、上部の白い部分がビールの泡を表しています。ビル自体を会社のモチーフ化してしまうところがいかにも近代的で印象的な建物でした。そしてその隣に写る東京スカイツリーも近代を象徴する建造物になっていくですから、このふたつの構成はまさに現代を表していると思います。

右の写真は、浅草の商店街が並ぶ通路から見える、東京スカイツリーを写したもので。浅草の通りは、古風な雰囲気を大切にしたお店が多く、人によっては懐かしささえ感じられるのではないでしょうか。店舗や建物も鉄筋コンクリートとすぐ見て分かるものはあまりなく、見かけが木造らしいものがほとんどでした。通りでは人力車が走り、観光客がゆったりと歩いたり、今では珍しいものとなり、懐かしくなってしまったものやもの写真を撮っている...。そんな情景がそこにはありました。そこにそびえ立つ、東京スカイツリーはとても不似合いに思いました。しかし、近代的なものの隣で見るからこそより一層昔を懐かしくさせる効果もあるのではないかでしょうか。また逆に、懐かしさの隣で近代的建造物を見ることによって、自分がいつの時代に生きているのかを改めて実感させてくれる、東京スカイツリーはいわば時代の梯子渡し的意味を担っていると思います。

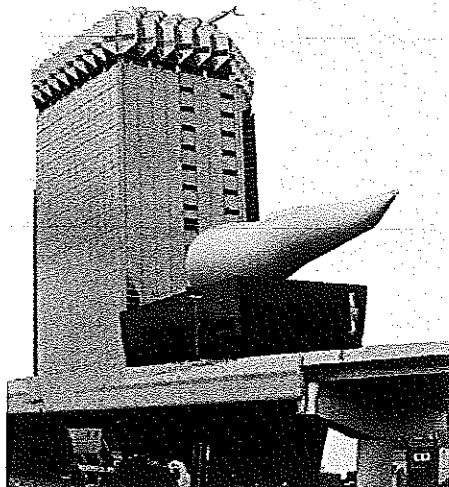
『東京スカイツリー』

今を生きる私達の象徴として、これから残されていくべき歴史的建造物だと思います。

ウォークラリー 感想

提出者：10N1084 千田 宏之 所属：安藤ゼミ

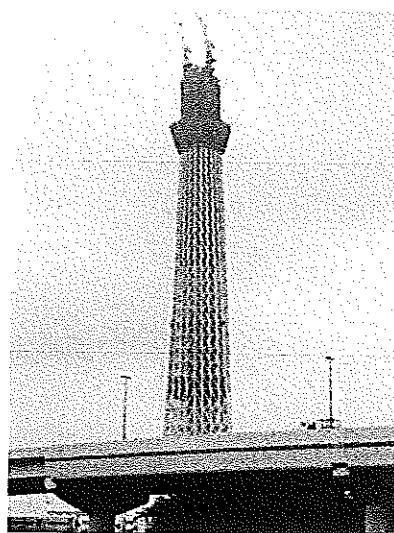
今回、ウォークラリーを経験して気付いたことがある。それは、私の地元神奈川よりも東京のほうが変わった建物が多いということである。変わった建物といっても、マイナスの意味ではなく、むしろ、デザイン的に工夫のされた面白いもののことだ。私の所属するゼミでは、浅草寺、合羽橋などを歩いたが、どこも地域全体で統一した景観を生み出しているように思えた。また、道中でも目をひく建物をたくさん見ることができ、とても良い経験になったと思う。



左の写真は、浅草寺に向かう途中に撮影した、「アサヒスーパードライホール」の写真である。手前の筋斗雲のようなものが、炎を表しており、その奥に見える建物は、ビールそのものを表現しているという。いかにも、という感じだろう。このように、浅草を訪れた観光客に何の建物だか説明しやすく、印象にも残るこのデザインを私はとても気に入ってしまった。前々から見たことのあるものではあったのだが、改めてじっくりと見てみると、その発想の面白さがより一層感じられる。

私たち安藤ゼミのメンバーは、今回のウォークラリーを前にして、訪れる予定の5つの目的地について分担して下調べを行った。「すみだリバーサイドホール」、「合羽橋」、「浅草寺」、「アサヒスーパードライホール」、「東京スカイツリー」、である。

私の担当は、東京スカイツリーだった。今までこれといって興味を示していたものでもなかつたし、むしろ私は東京タワーについてもほとんど何も知らない状態であった。しかし、下調べを進めていくうちに、だんだんと興味がわいてきて、同時に多くの知識を得ることができた。そして、知れば知るほどスカイツリーの完成が待ち遠しくなってきたのだ。ウォークラリー当日、実際にその姿を遠くから眺めて、その思いは一層強いものとなつたように思える。



ひとつだけ残念だったのは、天気が曇っていたことだ。もし空が真っ青に晴れていたら、一つ一つの建物もまた違って見えたかもしれない。もっと遠くのものをはっきりと見ることができたかもしれない。しかし、それはしようがないことであるので、またいつか晴れた日に東京を見学してみるとする。それにしても、私たちが歩いた地域が、東京のごく一部の地域であり、そこでこれだけ多くの建物を見ることができたということは、23区全体ではどれほど膨大な数になるのだろうか。考えてみれば大変なことだが、とりあえず、これから大学生活の4年間という時間を十分に使って、ゆっくりと探検してみようと思う。

最後に全体を通して一言。ウォークラリーは、幅広い建築を知ることができたと同時に、仲間との交流ができるよい機会だった。建築を学ぶ者としてだけではなく、一人の学生として、このイベントを楽しむことができたのが、今回何より嬉しいことであったと思う。

ウォークラリーレポート

【スカイツリー・スーパードライホール・浅草寺（仲見世）・合羽橋】

デザイン工学部 建築学科 10n1085 露木 優

経路…浜松町→水上バス（スカイツリー・スーパードライホール）→浅草寺（仲見世）→合羽橋

① スカイツリー

東京スカイツリーとは、東京都墨田区押上に現在建設中の電波塔で、完成すれば世界一の高さを誇る電波塔となる。予定では、完成すると 634.0 m という高さになり、これは同じ電波塔である東京タワー（332.6 m）の約二倍の高さである。

6月5日現在、398mまで建設されている。

② スーパードライホール

東京都墨田区吾妻橋に位置し、写真のような外観である。屋上に設置されている金色のオブジェは、アサヒビールの燃える心を象徴する「炎のオブジェ」とされている。

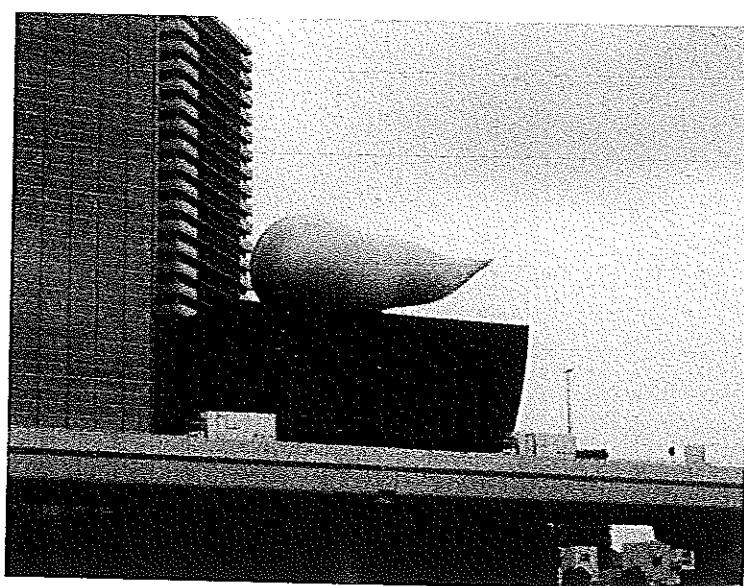
③ 浅草寺（仲見世）

入口正面には有名な雷門がある。そこから仲見世を通り、宝蔵門、本堂へと通じる。仲見世は関東大震災による被災後に1925年に鉄筋コンクリート造で再建されたもので、現在そこには多くの商店が立ち並んでいる。

④ 合羽橋

合羽橋は、台東区西浅草にある日本一の道具街であり、厨房用品にかかる店舗だけで170点以上にも及ぶ。また、厨房用品だけでなく、道具という道具はここで揃わないものはないというほどの数の店が立ち並んでいる。

《写真》スーパードライホール

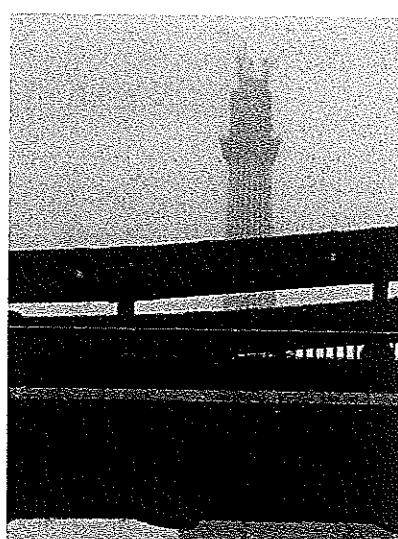


ウォークラリーについて

10N1086 蟹 昂洋

私は安藤先生のゼミで浅草方面に行った。このウォークラリーでの一番の目的は、現在建設中の東京スカイツリーを見る事で、そのほかに浅草寺、仲見世、合羽橋を見学した。

最初に浅草に行くのに水上バスに乗った。水上バスの上からは東京タワーと東京スカイツリーの両方を見る事ができた。



このウォークラリーの前にゼミで「ALWAYS 3丁目の夕日」を見た。この映画の時代には東京タワーを作っていた。この時日本は昭和の発展途上の時代で、東京タワーは時代の象徴だった。それに比べて東京スカイツリーは今の時代の象徴とまではいかないが、東京タワーの時のように少しでも時代の流れのようなを感じられればとおもった。

水上バスから降りて仲見世、浅草寺に行った。仲見世は東京で一番古い商店街で人形焼きなど様々な店がある。商店街の建物は、赤のような色で下町の雰囲気がよく出ていた。

合羽橋は厨房商品を中心に 170 店舗以上もあり、飲食店も多い通りである。ここでは陶器の皿などをたくさん見た。

このウォークラリーで今まで見ることができなかつた東京の姿を少し見ることができたと思う。これをきっかけに自分でも東京を歩いてみようと思った。

<ウォークラリーの感想>

10N1087

富田翔平 安藤ゼミ

先日行ったウォークラリーでは、東京に住んでいながらも行ったことのない場所を多く回れたので新たな発見が多くいい経験が出来ました。

人生二度目の水上バスからは、今建設途中のスカイツリーと52年前に同じように建設途中だった東京タワーが見えました。18年しか生きていない自分と50年以上あの場に立ち続けている東京タワー、そしてまだ完成していないスカイツリーという時間の差が面白く、言葉に表せないものを感じました。

人生二度目の浅草だったのですが、初の時は通りにも入らず雷門の前で記念写真を撮り、お台場へ直行してしまったので浅草の町を歩くのは初めてでした。浅草の仲見世通りには多くの人がいたのですが、その中でも外国から来たお客様の多さに驚きました。それだけ有名な仲見世通りなのですが、通りには食べ物（ほとんどがお菓子）を売っているお店が多く「これもあれも」とつい手が出てしまいお財布がそれなりに軽くなりました。

人生初の合羽橋。最初に漢字を見たときに読みなくて、「かっぱ」と読むと聞いてなぜ「河童と書かないのか？」とだいぶややこしい合羽橋なのですが、行ってみるとキッチン用品の山と河童の置物や金色の像があり更には巨大カブトムシの置物までも現れ、何でもありな場所でした。老舗から新しい店まで幅広くあり、料理好きな自分にとっては興味のある店ばかりでした。

このウォークラリーを通して人と場所の繋がりの大切さがなんとなくわかった気がします。



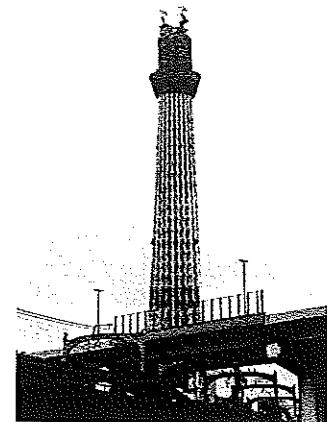
仲見世通り



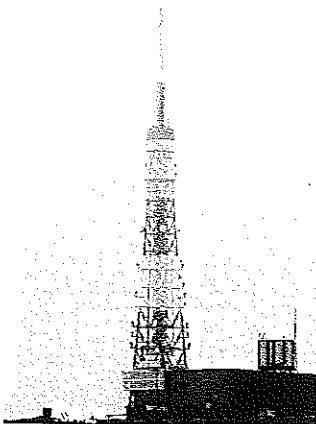
雷門



食品サンプル



スカイツリー



東京タワー



黄金の河童像

ウォークラリーの感想

安藤ゼミ 10n1089 銅島優介

この写真は浅草の伝法院通から見た東京スカイツリーです。

老若男女が道を行きかい、殺伐とした風景の中にも新鮮味のある東京スカイツリーと昔ながらの東京の姿である町並みのコントラストがより今の東京らしさを物語っていると思います。



今、東京は古く伝統のあるものの中に新しい異物を取り入れようとしています。その異物が東京スカイツリーであり、これがまたこの伝統を若い世代に伝える媒体となると思います。

東京スカイツリーは日本で一番高い建物になり、展望台からの景色は若い世代の人をひきつけるでしょう。その展望台から見る浅草はよりひきつけると思います。そして、浅草を知りたくなり、足を運び、浅草の今の姿を目で見て感じてもらえるでしょう。また、浅草から見る東京スカイツリーは普通の都心にから見るよりも現代感や壮大感が増し、年輩の方をひきつけると思います。

この相乗効果が互いを際立たせ、力強い東京の顔として未来の東京を担っていくと思い

ました。

ウォークラリーの感想は、まずとても楽しかったです。自分の気分的には遠足でした。アサヒビール本社はだれもが写真を撮るような外観のインパクトがすごかったです。金色の壁に炎のオブジェ、自分がアサヒビールの人であつたら誇らしく思うし、出勤が少し楽しみになると思います。けどまあ最初のうちだけだと思うのですが。浅草は食べまくったたっていう感じです。けどこれが浅草の本来の楽しみ方なのかなって思いました。建物ことを言うと自分はあの脇道の細さと両サイドの古めかしい店の感じがなんか安心感というかなんというか、情緒を感じれるいい場所だと思いました。最後は合羽橋です。ここは一人暮らしをしたい自分にはたまらなく楽しかったです。このサイズのフライパンあつたらいいな、こんな皿があつたらオシャレだな、などと妄想をふくらましていました。といつても自分はあまり料理をしないのですが。

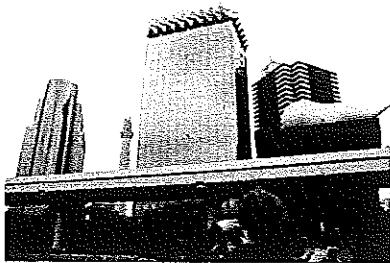
ウォークラリーをしてやっぱ建物は人を笑顔にできなきやいけないなと思いました。そういう建物があると人が集まり、活気が出るので自分はそういう建物をつくっていきたいです。

ウォークラリー2010の感想

10N1090 道明 由衣 安藤ゼミ

ウォークラリー当日は少し肌寒く曇っていたので東京スカイツリーがきれいにはっきりと見えず残念だった。

<水上バス>

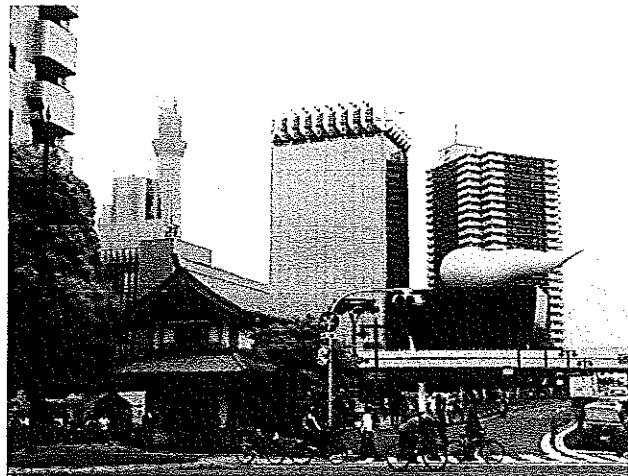


出発場所の日の出桟橋からは東京のシンボルともいえる東京タワーが見えた。今回のウォークラリーで東京タワーを見る事ができるとは思ってもいなかつたし、初めて目の前にしたので感動したが、東京スカイツリーを比較することができたので写真に収めておけばよかったと後悔している。

吾妻橋の手前で金のオブジェの存在感に圧倒された。自分でこの建造物について調べていなかったら、ただ単に見ているだけだったが事前に調べたので金のオブジェの意味を改めて感じながら見ることができた。また、ゼミの仲間が調べてくれた墨田リバーサイドホールもすぐそばにあり、発表してくれたことを思い出していたのだが、まさか東京スカイツリーが二つの間から顔をのぞかせるとは思ってなかつたので思わず一枚撮った。

<浅草>

駒形橋の手前の交差点から撮った一枚。



信号の隣には少し時代をタイムスリップしたような昔風の雰囲気を出したデザインの建物、赤い電灯が目立つ駒形橋、橋の向こう側にはひときわ目立つ金のオブジェとビールジョッキの形をした近代的な高層ビル、そして建設途中の東京スカイツリー。まさに過去・現在・未来が詰まっている。今回歩いた場所の中でわたしの一番好きな風景である。人力車や着物の人が見える日本の古き良き風景だと思ったらそこから振り向ければ高層ビルの連なる都会の風景。浅草はひとつの場所に立って 360° 見渡すと時代を超えていくような不思議な感覚にみまわれる、そんな場所であると思った。

・東京スカイツリーは人々にとってどういう存在なのであろうか。

「ALWAYS 三丁目の夕日」を見て、東京タワーは戦後の日本の未来を象徴した人々の希望であったと私は思っている。東京スカイツリーも東京タワーと同じように人々の希望なのであろうか。現在、東京スカイツリーは東京タワーの高さを越し世界中でも自立式電波塔としては一番高くなる予定である。建設途中で東京タワーを越す日には様々なメディアで取り上げられた。今はまだしばらく主要メディアでは取り上げられていないが、完成間近になればまた盛大に取り上げられることだろう。でも、わたしは「今」この「建設中」の東京スカイツリーができるだけ多くの人に知ってもらいたい。まだこれからという今の状況を見てもらいたい。わたしは東京スカイツリーを実際に見るまでは「へえ～そうだな。」くらいにしか思っていないかった。けれど、建設中のスカイツリーを見ることができるのは今しかない！そう思ったら「今」はすごく貴重な時間であるのだと感じた。今この時代を生きている人はラッキーであると思う。東京タワーは今ある姿しか見ることができないが、代わりと言っては何だが東京スカイツリーが建設中なのだ。「未来」を想像させてくれる存在ともいえるだろう。だからわたしはできるだけ多くの人に実際に見に行つてもらいたい。そうしたら、本当の意味で人々の希望・未来を象徴する建物であると言い切れる気がする。

今回の浅草周辺の街歩きをして感じたことはその場所に合った建物は素敵だなと思いました。墨田リバーサイドホールやあさひスーパードライホールなどビル群の中に溶け込みながらも圧倒的な存在感を感じさせていいなと思いました。また、その建物を見る位置、角度によって受けるイメージが変わってくるんだなと感じました。水上バスから下りて正面から見たときはぱっと見たときにおおっと思えるインパクトがありました。今回ある程度先に調べてから行ったことでその建物に興味がわいたし良かったのではないかと思います。そして東京タワーとスカイツリーが見れたことは大きなことだと思います。東京タワーは高さの上で抜かされてしまったけどそれ違うよさあると思うのでスカイツリーが完成したらまたスカイツリーの上と東京タワーの上から東京というまちを眺め比べてみたら面白いんじゃないかなと思っています。また、水上バスに乗っていて面白かったのはさまざまな形の橋が見えたことです。ひとつずつ形、色、構造が違っていてそれに個性が感じられたことが水上バスのよかったです。また仲見世のお店や少し外れたところにあるお店のつくりは昔ながらの木造の建築で落ち着くというか和む感じがしました。おせんべいや揚げ饅頭、めろんぱんなどを売っている建物がその食べ物と調和してその光景自体がとても貴重なことだと思います。木造の建物と昔からの浅草の文化がうまくからまっていてあの雰囲気をだしているだと思いました。なので今回のウォークラリーでいちばん気に入った場所です。また、合羽橋商店街にはいろんなものが売っていてとても楽しい街歩きができました。食品サンプルや居酒屋などにある椅子、和食料理屋さんにあるお盆など普段売られている姿を見ないようなものがたくさんあって新鮮でした。またスプーンやお箸、小皿などいろいろな種類があったのでまたゆっくり歩いて自分のお気に入りのアイテムを探してみても楽しいかなと思いました。今回ウォークラリーをしてその場所の地面を踏んで町を知るという街歩きの良さを知ることが出来たので個人的にも積極的に町に出て場所と建築の関係を見てみたいと思います。そしてお気に入りの町を発見したいと思います。

ウォークラリーにて撮った写真とその解説

10N1092 中出 慧

まずは、写真1について。

隅田川を超えて、スカイツリー、アサヒスーパードライホール、墨田区役所が3つならんだ写真。ちょうど水上バスの浅草という停泊場で降りたところで撮った写真。3つの建物が立ち並ぶこの景色はまさに2010年の東京を象徴する写真だと思う。アサヒスーパードライホールのとても不思議な形をしたオブジェは生でみると想像以上に威圧感があった。そして、遠くからでもすごく目立ち、見た『瞬間アサヒスーパードライホールのあのオブジェだ！』と思えた。教授が『写真でみるのと実際見るのはまた違って見えてくる』って言っておられたがそれの意味がなんとなくわかった気がした。現場にいくのが一番！人が写りこんでしまっていたのは残念だった。こういうミスは次回に活かそうと思う。

次は、写真2について。

これも写真1と同じようなところから撮った写真。空中に浮いた道路とスカイツリー。空中に浮いた道路は、地上にビルなどの建物をたくさんつくり、なおかつ道が欲しいが、場所がないから空中につくったと考えられることからこの空中に浮いた道路は発展の証とか象徴みたいなものではないかと思う。それとスカイツリーの組み合わせで『まだまだ進化し続ける東京』みたいなものが表現できたのではないかと思う。

そして最後に、写真3について。

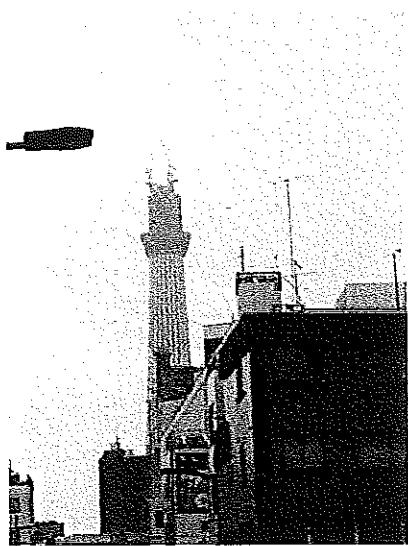
この写真是、仲見世通りから一本はずれたところから撮った写真。

昔ながらの街並みと現代風なスカイツリーの見事なまでの融合。

ちなみに、私たちはみんなでかたまってまつたり観光、食べ歩きをしていたのですが、仲見世通りでの食べ歩きはなかなかいいものだなと思った。

仲見世通りはまた今度、ほかの人たちとも行きたいと思える場所だった。

浅草寺は、初の浅草寺が壁の塗り替えみたいな工事をしていたので、あまり良い印象をもてなかった。それでも、中に入れば良い雰囲気ではあったし、工事が終わったらまた是非いきたいと思った。



←写真 3



←写真 2



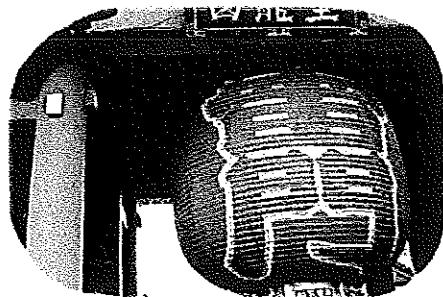
←写真 1

浅草周辺ウォーカラリーレポート

おでこせみ

10N1093 中野喬介

今回、ウォーカラリーでは浅草寺周辺を訪ねた。

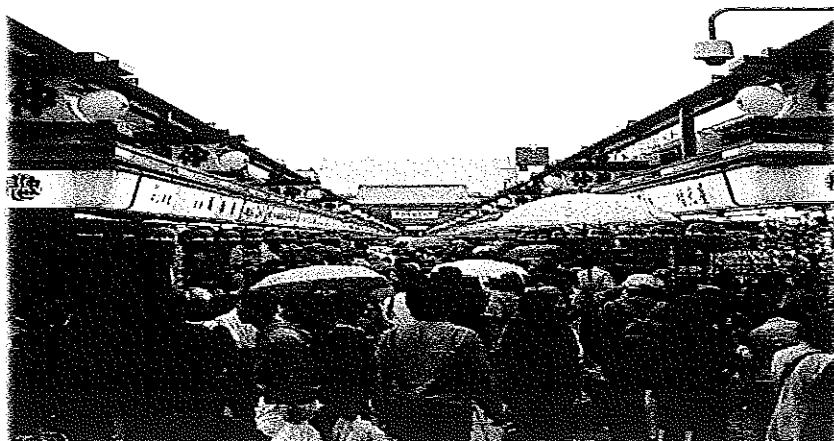


雷門の前に立つと、提灯があるせいか、重量感のあるその姿にあたたかい雰囲気を感じる。朱塗りの門の中央部にある提灯は重さ約700kgのもので、現在は数年おきに補修・数十年おきに新調している（2003年の新調以前は約670kgであった）。この門は今までに3度の消失にあっているが、現在のものは松下幸之助の協力によつて昭和35年に再現されたもので、ゆえに提灯の下部には“松下電器”と書かれている。

またその底部には龍の彫刻が施されていて、これは雨を降らし火災から守る龍神を崇めて彫られたものだという。覗き込まなければ気づかないが、立派なものなので一度は見ておきたい。

門を潜るとそこは仲見世商店街となっている。人がたくさんいたが、外国人旅行客らしい人も多かった。江戸時代、江戸幕府が開かれ浅草が活気に満ちてきたことで、参道上の出店営業が許可された。このとき仲見世商店街の原型が形作られ、当時もおもちゃ道具や菓子、土産品が売られていたという。そして明治時代の仲見世全店取り扱い命令、関東大震災、戦災と、これも数々の苦難を乗り越えて現在の姿となっている。

仲見世のお店の方々は熱心に商売をしていて、接客もとても明るく丁寧だった。この姿勢が昔と変わらぬものだとしたら、数々の困難を乗り越えて雷門・仲見世商店街が今も残っているということは決して不思議なことではないし、そこには感慨深いものがある。



そして少し歩いて、かつば橋道具街へ行った。この道具街は、1912年（明治45年・大正元年）に数軒の店が構えられたことがおよその始まりである。

かつば橋道具街は、コーヒー関連の専門店や陶磁器専門店など、調理関係の道具がたくさん集まっていた。そのほか、メニュー看板や食品サンプルなどの内装に関わるものも販売していて、見ているだけだったがとても楽しかった。

普段よく行くショッピングモールのなかの専門店というのは、なんだか綺麗に陳列されていて人の温かみが感じられないことが多い。それに比べてこの道具街は非常に個性的なものが置いてあったり、歴史が古いからか落ち着いた雰囲気がある。

浅草周辺は多くの人に支えられて現在まで、形は変わったとしても、残されてきたものが多くあると感じた。今でもこれほど人を惹きつけるのは、浅草寺の莊厳さかもしれないし、浅草の名産品のためかもしれない。惹きつけられる理由は人によって様々だが、将来、このように人が惹きつけられる場所を提供できるような建築家になりたいと思った。

